

# 佐渡鉱山 候補逃す

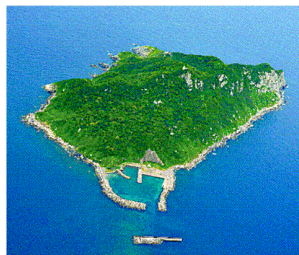
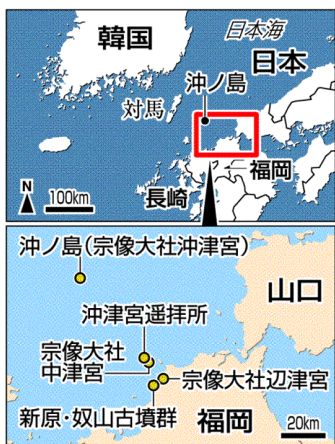
## 世界遺産 宗像・沖ノ島を推薦

文化審議会は28日、2017年度の世界文化遺産登録を目指す候補として、福岡県の古代遺跡「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」を選んだ。本県と佐渡市が登録を目標としていた「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群（同市）」は選ばれず、18年度の登録を目指す。「宗像・沖ノ島」は来年2月1日までに政  
府が国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦書を提出し、17年夏のユネスコ世界遺産委員会で審査を受ける。

選定に当たった文化審議 優先順位をつけ、全体の計  
会特別委員会の西村幸夫委 画と整合する形でうまく説  
員長は記者会見で「佐渡鉱 明する必要がある」と述べ  
山」が選ばれなかった理由 だ。  
について、老朽化した施設 一方、文化庁の担当者は  
の保全管理策をより具体化 400年以上にわたる鉱山  
する必要があると指摘。「全 の歴史に触れ「それぞれの  
ての構成資産をいっぺんに 時代の特質や、技術的な進  
理想的な状態に持つていく 展が一度に分かるという点  
ことはあり得ない。個々に を、明確に推薦書で表せる

金を中心とする佐渡鉱山の遺産群 西三川砂  
金山、鶴子（るし）銀山、相川金銀山、大間港、  
吹上海岸石切場跡、片辺・鹿野浦海岸石切場跡、戸地  
川第二発電所の七つの資産で構成する。西三川は「今  
昔物語集」にある砂金説話の舞台と考えられ、水路跡  
や山を崩した跡がある。鶴子は地表近くの鉱石を採る  
「露頭掘り」跡や、トンネルを掘る「坑道掘り」跡が  
見られ、探掘方法の変遷が分かる。相川では1601  
年に本格的な開発が始まり、江戸幕府の直接経営によ  
って島外から技術者や労働者が集められ、探掘・製錬  
技術が独自に発展した。明治以降、海外の技術を取り  
入れて近代化。大間港と二つの石切場跡、発電所は相  
川の鉱山開発を支えた。

ようになつてきている」と 佐渡市の甲斐元也市長は  
評価した。 28日の会見で「これで終わ



沖ノ島 福岡県宗像市の沖ノ島。宗像大社沖津宮遥拝所。同市の大島

つたといつてはいい。来何としても（推薦を）取りにいきたい」と述べた。候補に決まった沖ノ島（宗像大社沖津宮）は九州と朝鮮半島の間にある。4〜9世紀に大陸との交流の成就を祈る国家的祭祀が行われた。朝鮮半島の製金の指輪や中東のペルシャからもたらされた力ツトグラスの破片など約8万点の出土品が国宝に指定され、「海正倉院」とも呼ばれる。今も女人禁制などの禁忌が守られており、地元自治体は「島を信仰の対象とする伝統が継承されてきた世界でもまれな例」と説明、「文化的伝統や文明の存在を伝える」といった世界遺産の登録基準を満たすとして推薦を求めていた。遺産群は沖ノ島に加え、九州本土にある宗像大社の社殿など全5件で構成する。文化審議会では「宗像・沖ノ島」「佐渡鉱山」のほか、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」（北海道・青森、岩手、秋田）と「百舌鳥・古市古墳群」（大阪）の2件が選考対象だった。価値証明や保全の面で「宗像・沖ノ島」の準備が最も進み、登録が見込めると判断された。

（関連記事3・31面）